

9.寄 稿**『タイ国雑感』**

セイコーインスツルメンツ株式会社
千環協顧問 名取 昭平

1. はじめに

千環協会員の皆様、ご無沙汰いたしております。2002年3月に千環協より離れまして、はや3年となりました。仕事は、本社へ戻りまして、環境とは関係のない生産技術関係の業務を担当してありますが、分析技術（機器分析）を使ってという点では、以前の業務と関わりのある仕事といえます。

そこで、昨年3月から、本年の2月まで、ほぼ1年間、タイへ出張してましたので、業務内容は社外秘ですので、また、環境問題と直接関係のない話で恐縮ですが、滞在期間で見聞きした雑感を寄稿させていただきます。

2. 通勤事情

当社のタイ工場は、SIT (Seiko Instruments (Thailand) Ltd.) と称しまして、バンコクから約60Kmほど離れたナワナコンという工業団地内にあります。

設立当社は時計関係の部品を作ってましたが、今では時計製造はなく、ハードディスク（HDD）関係の部品を製造しています。

宿泊はバンコク市内のホテルにとり、毎日ワゴン車で、1時間かけて通勤していました。帰りが、バンコク名物の渋滞（トラフィックジャムと称します）に巻き込まれ、2時間近くかかることもありました。時折バタッと止まることがあり、VIPが空港から帰るときなど一時道路を通行止にしてしまうため、あまり気の短い人には無理ですが、気長に待つことが必要です。

ワゴン車は、会社手配の請負に出しており、タクシーと同様にすっ飛ばすので、なれるまで、怖くて眼を開けていられないです。（車間距離など保ってません。事故の時は一連托生）郊外の国道には、交差点が少なく、反対車線に出たい時は、Uターン専用的高架が作ってあり、そこまで行って反対車線に入り、また元のところに戻るといふ、何だかこれ効率的なのかな？と、疑問でした。

渋滞で車同士の事故が多いかと思いましたが、意外と少なく、ドライバー同士の暗黙の了解で、微妙に譲り合っているようです。また割り込みが結構あり、日本とか中国ではビービーと鳴らすところですが、タイでは鳴らさず、運転手がかなり穏やか（寛容）のようです。ただバイクタクシーとの事故は何回も目にしました。幸い、当事者となったことは

ありませんでした。バイクタクシーとは、単車のことで、一人だけでなく二人乗せて走っているものもあり、タイは何でもアリのところだと思いました。

工業団地内にもホテルはありますが、休日の時の不便さや、食事情が良くないので、どこの会社も同じように、バンコク市内のホテルから通っているようで、一斉にワゴン車が郊外を目指します。で、私、腰痛気味なので、この長時間通勤がつかったです。

鉄道が整備されていないので、車しかなく、現地の従業員は、派手なペイントをした会社手配のバスで分乗してきます。朝、夕は、このバスと、ワゴン車と、マイカーで工業団地の入り口が大渋滞となります。

3. 宿泊・食事情

バンコクは、スクンビット通りというところのホテルで、このスクンビットは、日本人街と言われるくらい、日本人出張者が多く滞在してました。したがって日本人向けの居酒屋がいっぱいあります。日本語のメニューで、刺身から何でもありまして、食に苦勞することはありません。

10年ほど前にバンコクへ行きましたが、その当時は居酒屋等なく、タイ料理のみで、苦勞したことから比べると格段の違いでした。

物価は大変安く、日本料理でも、お酒飲んで食べて500バーツ（1,500円）くらいで、タイ料理ですともっと安く、300バーツ（900円）くらいで、済んでしまいます。その他、中華料理、イタリア料理、インド料理、ドイツ料理など、安くおいしく食べられます。ちなみに、一番高いのがイタリア料理で、ついで日本料理、一番安いのは、タイ料理といったところです。

さらに夕刻、道路のいたるところに出店してくる屋台では、10バーツといった値段で安く食べられますが、ローカルの人以外は無理です。ローカルの人には、危ない（下痢など）屋台と、安全な屋台とを見分けることが出来るそうです。

私は辛いものがダメで、また「パクチー」と称する香草が何にでも入ってきますので、これが食べられず、タイ料理は苦手でした。が、それでも、現地の人に案内してもらおうと、結構おいしく食べられるものがあることがわかりまして、後半は、結構タイ料理を食べました。でも一週間のうち3～4日は居酒屋で、あとの日を、タイとかイタリアとか中華といった具合でした。

水道水は飲めません。ミネラルウォーターをコンビニ（セブンイレブンが結構あります）で買って歯磨き、飲用にします。ホテル、レストランで食事の時に出される水や氷は、大丈夫です。昔は氷から下痢したといわれてましたが、今はミネラルウォーターで作っており安心です。

4. バンコク市内

道路を渡るのが大変で、渋滞で車が止まっていれば別ですが、通常はビンビン飛ばしているのに、信号のある交差点でもタイミングが難しくて怖く、現地人が来るまで待って、一緒にわたりました。日本のように横断歩道の手前で車が事前に止まってくれることはありません。また、歩道はあるのですが、デコボコで、電話ボックスで歩道がふさがれていたり、日本のように整備されてません。(年配者にやさしくない都市です)

交通手段は、BTS (スカイトレイン:モノレールです) と、昨年夏に開通した地下鉄を主に使っていました。地下鉄は、大きな事故を起こして有名になりましたが。タクシーはあまり使いません。というのも、英語が通じず(当方もあまりしゃべれませんが)、また、日本人と見ると吹っかけてくるので利用しませんでした。メーターがついているのに価格交渉してきます。「メーター、メーター」といって拒否すると、不機嫌そうに発車します。また、タイではタクシーの方で乗車拒否をすることが出来るようで、結構、行き先を言って拒否された こともあり、タクシー嫌いになりました。

5. 会社で

タイでは女性が大変活躍されており、管理職も女性が多いということで、社内会議でも出席者は圧倒的に女性が多く、ちょっと戸惑いました。日本で会議というと、男性ばかりに慣れてましたので、女性ばかりで、何だか最初は慣れるまで、変な感じでした。

外気が30度を超えるひどい暑さですが、室内は逆に猛烈にクーラーを効かせており、上着着用でないと寒くて座ってられないのですが、ローカルの方は、半袖のまま平気で、いったい体がどうなっているのか?と思いました。(ちなみに、クーラーを効かすのがサービスだそうです) 現地のエンジニアは英語が話せますが、ラインの方は、タイ語のみで話が全く通じません。ラインの方とは、ただお互い笑ってごまかすだけです。

6. ちょっと変わった儀式

仕事の関係で一緒にやりました現地ローカルのエンジニアの男性(22歳くらい)から、昨年10月頃に、突然招待状をいただきました。それは、3ヶ月間の坊さん修行にはいるので、その最初の儀式への招待状でした。この儀式はマンク(Monk:修道士の意味だそうです)といい、会社を3ヶ月間もあけて寺にこもるのだそうで、せっかく仕事が順調にいていたのに、3ヶ月も休むということで、ちょっとあきれました。

実はこの男性、結婚したい女性がいて、その女性の親から、マンクも済ませていない男には嫁にやれないといわれたそうで、それで修行とのことでした。寺にこもるといわれてましたが、実際は通いだそうで、何だー!てな感じでした。

写真（左）はその時のもので、頭にソリを入れて、格好は、修道士そのものでした。なお、写真（左）の着衣は白で派手なものですが、儀式終了後には、黄褐色のいわゆる僧侶姿（写真右）に着替えさせられていました。



7. タイのベストシーズン

タイへこれから行こうと思っておられる方は、お勧めは、12月～1月までの季節がベストです。私は3月から出張してまして、年中クソ暑いところだと思っていましたが、12月に入ってから、半袖でも寒いくらいになるので、こんな涼しい季節もあるのだと、ビックリしました。

皆さん良く知っているおられるようで、日本からの旅行客も急に増え、この期間は平日でも日本発の飛行機が満席になります。

8. 観光先

寺院が好きな方にはタイは最高で、たくさんの寺院があり行くところが一杯あります。興味のない当方にとっては、観光といっても困りましたが、市内観光、アユタヤ、チャオプラヤ川のディナークルーズくらいのもので、カンチャナブリ（戦場に架ける橋）は行きましたが、期待はずれの規模の橋で、あまり面白くありませんでした。ディナークルーズは良かったです。これはお勧め。

休日、暇つぶしに映画に行きましたが、英語で、タイ語の字幕で、ストーリーが良くわからず残念でした。ハリーポッター、デアフタートモローなどみました。（安く、120

パーツ（360円）でした）

映画が始まる前は、国王が映し出される場面があり、敬意を表さなければいけません。最初は何で起立するのか？わからず、戸惑いましたが、立ってよかったです。警官が見張っている場合があり、逮捕されるそうで、実際、某社の赴任者が連行されて、上司が引きとりにいったとのことでした。

[アユタヤにて]



[カンチャナブリー・戦場に架ける橋]



9. 治安

タイに行きたての頃は、警戒してましたが、治安は良くて、真夜中に出歩かなければ安全です。昨年タイから4日間ほど中国（シンセン、ドンガン）へ行きましたが、中国滞在中は、大変緊張しまして、タイへ戻ってホットした感じが忘れられません。

10. ことば

タイ語は全くわかりません。若いうちでないと覚えも悪く、右から左へ抜けてしまいました。サワディーカップ（挨拶、おはよう、こんにちは、こんばんは全てこれ1本。）、コップンカップ（ありがとう）くらいで、あと、会社のキャンティーンでの昼食の必要性から、「カウパット（チャーハンみたいな焼き飯）」「ママーパット（焼きそば）」で、「マイサイパクチャー（香草をいれなくて）」を必ず添えて、注文です。

サワディーカップを、「さわっていいカップ」といっても通じました。またビールにクロスターという地ビールがありまして、これも「苦労したー」といって注文しても通じましたので、笑い。

11. おわりに

ということで、環境問題には触れず（というよりも触れられない）に終わりとなりました。会員皆々様の益々のご発展を祈念いたしまして、さようなら。

以上